

社会との共存と地球環境との調和をめざして

SIIグループ事業概要

SIIグループの製品は身近なパーソナル機器からレストランやタクシーで使用する機器、オフィスや研究所、工場などの設備として、また、部品類は多くの製品のキーパーツとして社会のあらゆるところで皆様にご利用いただいています。ここでは、SIIグループの代表的な製品をご紹介します。

ウオッチ



機械式腕時計
伝統の精密技術の結晶、機械式腕時計。温かみのある時を刻み続けます。



ウオッチムーブメント
クォーツムーブメントは世界的なベストセラー、機械式ムーブメントは世代を超えて愛用される製品です。

精密部品・工作機械



ハードディスク用部品
腕時計製造で培った精密加工技術を活かしたハードディスクドライブ用部品です。



全自動内面研削盤
小径ベアリング、車載部品を高精度、高効率に研削する省スペースなCNC内面研削盤です。

電子デバイス



CMOS IC
小型、低消費電力、高信頼性。モバイル機器や家電製品、車載電装など身近なところで活躍しています。



水晶振動子
フォトリソグラフィ技術により小型・高精度化を実現。低消費電力化にも貢献しています。



マイクロ電池
モバイル機器のメモリーや時計機能を確実にバックアップし、安心を提供しています。

情報機器・ソリューション



無線決済端末
無線カード決済をサポートするCREPICO(クレピコ)。タクシーや集金などのシーンで利用されています。



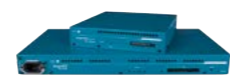
オーダーリングシステム
外食産業向けオーダーリングシステムです。レストラン、居酒屋、ゴルフ場などで幅広く活躍中。



データ通信モジュール
無線通信や小型端末の技術を活用してユビキタスネットワーク社会の進化に貢献しています。



放射線スペクトル分析装置
放射線を精密に測定します。学術研究や安全管理に幅広く利用されています。



ネットワーク製品群
通信機器や運用管理製品群など、通信事業者から一般企業まで幅広い分野で利用されています。

プリンター



大型プリンター
業務用プリンターに求められる効率性と信頼性を高い技術で実現します。



サーマルプリンター(メカユニット・周辺機器)
POS、医療計測、物流などの業種に小型・軽量・高速なサーマル印字式の製品を提供しています。



インクジェットプリントヘッド
屈指の印字安定性と多様なインク適応性を活かし、各種印刷ニーズに応える製品を提供しています。

コンシューマー製品



電子辞書
ビジネスパーソンや医学・翻訳のスペシャリスト、学生のための電子辞書を提供しています。



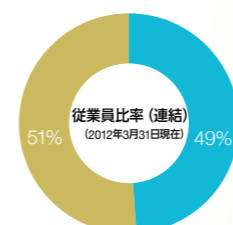
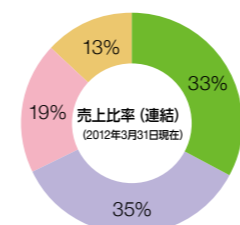
PHS電話機
便利な機能と高いデザイン性をあわせ持ったPHS。より快適なコミュニケーションをもたらします。



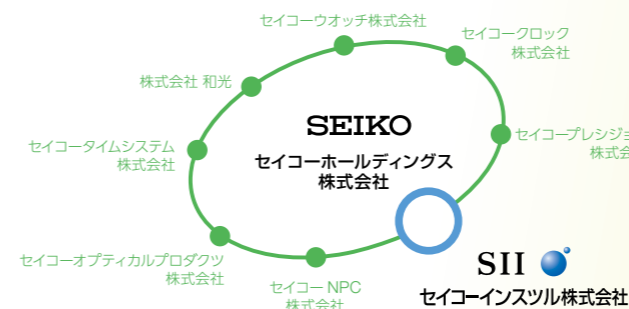
チューナー/メトロノーム
楽器チューニング用のチューナー、機械式や電子式のメトロノームを提供しています。

会社概要

社名：セイコーインスツル株式会社(略称：SII)
設立：1937年(昭和12年) 9月7日
資本金：97.56億円
決算期：3月(年1回)
年間売上高：(2011年度単独) 1,040億円
(2011年度連結) 1,543億円
従業員数：(単独) 2,577名(出向者除く)
(連結) 9,561名



セイコーホールディングスグループ



編集方針

- 本報告書はSIIグループのCSR活動をステークホルダーの皆様にお伝えするとともに、皆様からご意見をいただきCSR活動の改善につなげるツールと位置付けています。
- 本報告書に掲載していない詳細な情報や最新情報はホームページでご覧いただけます。
<http://www.sii.co.jp/eco/>
本文中には「Web」で表記しています。

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、GRI「サステナビリティレポートガイドライン第3.1版」、「ISO26000(社会的責任に関する手引き)」などを参考にしました。

報告対象範囲

- セイコーインスツル(株)の各事業所、営業所、ならびに関連会社。
*環境報告はISO14001認証取得拠点である国内8拠点、海外7拠点を中心に報告しています。
- タイの製造拠点 Seiko Instruments (Thailand) Ltd. の環境データは、洪水の影響で第1四半期のデータのみを集計しています。

報告対象期間

- 2011年度(2011年4月~2012年3月)の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含まれています。

お問い合わせ先

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507
セイコーインスツル株式会社
環境経営推進部
TEL: 043-211-1149 FAX: 043-211-8019 ホームページ: <http://www.sii.co.jp/eco/>

地球サミット20周年を機に、環境・社会と調和する真のグローバル企業へ

昨年は、東日本大震災やタイにおける洪水など、自然の脅威を改めて認識させられた年であり、被災地域に拠点を構えるSIIにとっては厳しい一年となりました。同時に、事業活動の復旧にあたっては、お取引様をはじめステークホルダーの皆様にご協力を賜った一年でもありました。厚く御礼を申し上げます。

また、私たち企業が持続可能な社会を構築する上で重大な責務を負っていることに変わりはなく、今後とも『誠実・信頼・感謝』というSIIの理念のもと復興に尽力していく所存です。

環境との調和を目指して

本年は1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミットから20年を迎え、それを機会に6月には同地で国連持続可能な開発会議(リオ+20)が開催されました。20年前

に行われたこの地球サミットが、企業における地球環境問題への本格的な取り組みの大きな契機となったと言えるでしょう。しかしながら、地球環境問題と多くの人々の貧困問題はまだまだ深刻で、解決にはほど遠い状態です。企業への期待も責任もますます高まっている中で、企業は一層の努力をして持続可能な社会構築の一翼を担っていかねばなりません。

SIIにおいては1980年代のオゾン層破壊物質であるフロン全廃活動に始まり、環境マネジメントシステム導入及びISO14001認証取得、廃棄物のゼロ・エミッション達成、鉛はんだ全廃、SIIグリーン商品ラベル制度の導入など全社をあげて着実に取り組んできました。2010年からは、製品自らの環境性能を向上した取り組みに加え、SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できること、また、人々が生活する環境の保全に貢献できるという概念を『グリーンプロダクツplus』と名づけ、より一層の地球環境の改善に貢献できるものづくりを進めています。

生物多様性保全については、2011年4月に「生物多様性行動指針」を制定し、製品と生物多様性との関連や影響を評価する試行を開始しました。

地球サミット開催20周年を機に、環境と調和し社会と調和した経営を目指す決意を新たにす次第です。

独自技術でエネルギーソリューションを提供

東日本大震災をきっかけに再びエネルギー問題の重要性が浮き彫りになりました。地球温暖化防止に注力しながらも、より安全性の高い再生可能エネルギーの普及が望まれています。

SIIは大きなエネルギーを創り出し提供する企業ではありませんが、エネルギーを無駄なく効率的に活用することを得意としています。SIIは腕時計の技術を源とし、技術理念『匠・小・省』のもと多岐にわたる技術を展開してきました。今後はさらに、SII独自の技術とネットワーク技術を融合させたエネルギーソリューションを提供してまいります。

真のグローバル企業を目指して

昨今、経済のグローバル化はさらに加速しています。グローバル化した経済の中で、常にお客様に有用な価値を提供し続けるには、たゆまぬ探求と改革の努力が必要であると痛感しています。そのためには、世界のあらゆるステークホルダーとコミュニケーションをとりながらニーズを理解すること、そして、必要な技術を高め、及ばざる部分を徹底して改善し、喜んでいただける製品やサービスを創り出すことが重要だと考えています。

その実現にあたり原動力になるのは社員一人ひとりの力です。社員には目標を定め、技術を磨き、自らの価値を高める努力を尽くすことを強く期待しています。その一人ひとりの力をまとめ上げ、企業の大きな力にするには、トップ自らが、持続可能な社会づくりに向けた明確な方向を社員に示すことが必要です。経営をあずかる者の重要な責務と認識し、真摯に努めてまいります。

本報告書をお読みいただき、ご意見とご指導を賜れば幸いです。心より宜しくお願い申し上げます。

2012年7月



セイコーインスツル株式会社
代表取締役社長

鎌田 國雄

理念とコーポレートアイデンティティー

理念

誠実・信頼・感謝

コーポレートアイデンティティー

時を創り、時を活かし、時を豊かに

SII企業行動憲章

(2005年10月制定 2011年4月改定)

SIIグループは、経済社会の発展を担うとともに、いつの時代にあっても社会から必要とされ、信頼される存在でありたいと考えています。SIIグループ各社および社員は、高い倫理観を持って社会的責任を果たしながら、社会とステークホルダーへ新しい価値を提供し、持続可能な社会の創造を目指します。

■ 第1条 価値の提供 ■

● 技術の研鑽に努め、社会的に有用で、安全性と品質が高い製品やサービス、新しい価値を提供し、お客様の満足と信頼の向上を図ります。

■ 第2条 公正・誠実な企業活動 ■

● 違法はもとより、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報を正しく管理し、倫理的で公正、誠実な企業活動を行います。
● 政治や行政との健全な関係を保ち、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした態度で対応します。

■ 第3条 人間尊重と人材育成 ■

● 社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
● 事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。
● 高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

■ 第4条 環境との調和 ■

● 環境問題への取り組みは人類共通の課題と認識し、主体的に行動します。

■ 第5条 社会との共存 ■

● 社会と対話し、適正な情報開示を行い、開かれた企業を目指します。
● 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
● グローバルな事業活動においても、この憲章に従いながら、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、各国の発展に貢献します。

■ 第6条 経営トップのコミットメント ■

● この憲章の精神を率先垂範の上、実効ある体制を確立し、SIIグループへの徹底を図るとともに、取引先にも促します。
● この憲章に反する事態が生じたときは、自らが問題解決にあたり、説明責任を遂行の上、自らを含め厳正な処分を行います。

CSR活動の目標と実績

2011年度は、活動方針を「グローバル企業に相応しいCSR活動を推進する」とし、CSR活動に取り組みました。

◎：目標以上に達成 ○：ほぼ達成～達成 △：達成度70%以下 —：評価対象外

	2011年度の目標・計画		2011年度の主な実績		評価	2012年度の目標・計画	
価値の提供	お客様満足	関連ページ 8P	● お客様満足度向上への継続的取り組み	● お客様満足度向上への継続的取り組み	○	● お客様満足度向上への継続的取り組み	
	品質向上 製品安全	関連ページ 7P	● ISO9001のグループ統一認証化 ● 製品安全・技術法規制点検の実施と指摘問題点の100%改善 ● 製品安全教育(3回/年)と各国技術法規制セミナー実施 ● 業務プロセス点検実施 ● 放射能汚染に対する放射線検査を実施し出荷保証する	● ISO9001統一認証化で第1期の9部門の統一化を実施 ● 製品安全・技術法規制点検の実施と指摘問題点の100%改善を実施 ● 製品安全教育(7回)、各国技術法規制セミナー(3回)を実施 ● 業務プロセス点検として15事業部門実施 ● 製品の放射線検査による出荷保証を実施	○ ○ ○ ○ ○	● ISO9001統一認証化として第2期、第3期の10部門を実施 ● 製品安全・技術法規制点検の実施と指摘問題点の100%改善 ● 製品安全教育(2回/年)と各国技術法規制セミナー実施 ● 製造部門を対象に業務プロセス点検を実施	
	ユニバーサルデザイン	関連ページ 8P	● グラフィックユーザーインターフェース(GUI)開発事例によるガイドライン化 ● 「グリーンデザイン」評価項目の検討	● レーザープリンタにおけるGUI作成ガイドラインのまとめを実施 ● GUIの業務展開を2件(携帯端末及び電子辞書画面)実施 ● レーザープリンタにおけるグリーンデザイン評価項目の検討を実施	○ ○ ○	● GUIの評価項目の詳細設定 1件 ● グリーンデザイン評価体制の検討 1件	
公正・誠実な企業活動	コンプライアンス	関連ページ 9P	● 海外拠点のコンプライアンス体制の整備 ● オンライン形式のコンプライアンス教育の継続実施 ● コンプライアンス意識調査の定例実施	● 一部海外子会社でのSII行動規範の周知徹底 ● オンライン形式のコンプライアンスクイズ(毎日実施・年1回定例実施)の継続実施 ● 経営幹部へのコンプライアンス意識啓発活動(月1回)の実施 ● コンプライアンス意識調査の定例実施	△ ○ ○ ○	● 海外拠点での、SII行動規範の周知徹底、行動ガイドラインの作成と周知徹底および内部通報制度の確立と周知徹底 ● オンライン形式のコンプライアンスクイズ(毎日実施・年1回定例実施)の継続実施 ● コンプライアンス意識調査の定例実施	
	リスクマネジメント	関連ページ 10P	● 本社部門、事業別リスクマネジメントの継続実施 ● 緊急時対応体制の見直し	● 本社部門で合計40項目のリスクに対して対応策を実施 ● 緊急時連絡体制の整備、全社防災体制の見直し ● タイ洪水への対応(緊急対応、復旧対応)	○ ○ ○	● 本社部門のRMの継続推進、事業部門のRM重点項目の推進 ● 海外拠点の緊急連絡体制整備推進、拠点防災体制の見直し	
	公正な取引	関連ページ 7P	● バイヤー教育テキストリニューアル、購買監査およびサプライヤー認定制度の効率化、調達リスクマネジメントの更なる充実	● バイヤー教育テキストリニューアル実施、購買監査およびサプライヤー認定制度の効率化完了、調達リスクマネジメント実施	○	● リニューアル後テキストによるバイヤー教育、効率化後購買監査およびサプライヤー認定制度の監査頻度/認定率向上	
人間尊重と人材育成	人権の尊重	関連ページ 11P	● (海外関連会社)人権宣言、行動規範、行動ガイドラインの作成12拠点 ● 海外関連会社の新人事制度の構築及び再構築(タイ)	● 人権宣言を8拠点、行動規範を17拠点、行動ガイドラインを0拠点で作成 ● タイの大洪水の影響で未完成	△ —	● 人権宣言を10拠点、行動規範を1拠点、行動ガイドラインを18拠点で作成 ● タイ拠点における新人事制度を構築し2013年度初めより導入	
	安全と健康	関連ページ 12P	● 救命講習会を国内6拠点にて実施 ● SIIグループ総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施 ● 健康づくり支援(特定保健指導 実施率45%)	● 救命講習を国内6拠点にて実施(160名受講) ● セキュリティ点検を加えた総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施 ● 特定健康診断実施率75.9% 特定保健指導実施率25.6%	○ ○ △	● 救命講習を国内6拠点にて実施 ● SIIグループ総合安全点検(自主点検)を国内全拠点と海外製造拠点にて実施 ● 特定健康診断実施率95% 特定保健指導実施率45%	
社会との共存	地域貢献	関連ページ 14P	● 各拠点での地域貢献の継続実施	● 各拠点で地域清掃を実施	○	● 各拠点での地域貢献の継続実施	
	育成支援	関連ページ 14P	● 各拠点での体験学習、インターンシップなどの受け入れ継続	● 各拠点で体験学習、インターンシップなどを受け入れ	○	● 各拠点での体験学習、インターンシップなどの受け入れ継続	
環境との調和	環境配慮型製品	関連ページ 17P	SIIグリーン商品の売上比率の向上 (一般製品)96% (大型製品)45%	99.0% 35.9%	◎ △	(一般製品) SIIグリーン商品の売上比率を96%以上に維持 (大型製品) SIIグリーン商品の売上比率を50% 2013年度55% 2014年度以降60%	
	製品含有化学物質	関連ページ 20P	SIIハイグレードグリーン商品の創出数向上 創出数3製品以上	3製品	○	SIIハイグレードグリーン商品の創出数4製品以上	
		製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有	製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有	非含有を95%以上に維持*1	97.4%	◎	製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有を95%以上に維持*1
	地球温暖化防止	関連ページ 19P	製品へのポリ塩化ビニルの非含有	非含有を95%以上に維持*2	95.1%	◎	製品へのポリ塩化ビニルの非含有を95%以上に維持*2
		エネルギー起源のCO ₂ 排出量の削減	エネルギー起源のCO ₂ 排出量の削減 (国内拠点)CO ₂ 排出量を原単位1%以上向上 総量:68,576トン-CO ₂	(国内拠点)CO ₂ 排出量を原単位1%以上向上 総量:68,576トン-CO ₂	総量:64,729トン-CO ₂ 前年度比:-3.8%	◎	(国内拠点) エネルギー起源のCO ₂ 排出量を原単位1%以上向上 総量:67,349トン-CO ₂ 2020年度末までに1990年度比25%削減
	資源循環	関連ページ 19P	(海外拠点)CO ₂ 排出量を前年度比1%削減 総量:47,332トン-CO ₂	(海外拠点)CO ₂ 排出量を前年度比1%削減 総量:47,332トン-CO ₂	<参考値*4> 総量:30,674トン-CO ₂ 前年度比:-35.8%	—	(海外拠点) 拠点ごとにエネルギー起源のCO ₂ 排出量を前年度比1%削減
		廃棄物の再資源化率の向上	(国内拠点)再資源化率:88%以上 (海外拠点)前年度比3ポイント向上:65%	(国内拠点)再資源化率:88%以上 (海外拠点)前年度比3ポイント向上:65%	94% <参考値*4> 55%	◎ —	(国内拠点) 廃棄物の再資源化率を90%以上 (海外拠点) 廃棄物の再資源化率を前年度比3ポイント向上
	化学物質管理	関連ページ 20P	水使用量の削減	(国内拠点)前年度比1%削減:816千m ³ (海外拠点)前年度比1%削減:756千m ³	759千m ³ 前年度比:-8% <参考値*4> 618千m ³ 前年度比:-19%	◎ —	(国内拠点) 水使用量を前年度比1%削減:751千m ³ (海外拠点) 水使用量を前年度比1%削減
		事務用紙使用量の削減	(海外拠点)前年度比3%削減:26.3トン	(海外拠点)前年度比3%削減:26.3トン	<参考値*4> 18.6トン 前年度比:-31%	—	(海外拠点) 事務用紙使用量を前年度比3%削減
	生物多様性保全	関連ページ 20P	化学物質*3の排出量の削減	29.0トン	29.6トン 前年度比:+7%	○	(国内拠点) 化学物質*3の排出量を前年度維持
		生物多様性に関する方針を策定	SIIグループ生物多様性行動指針を策定		○	生物多様性と事業活動との関係性を評価(土地利用状況)	

*1 EU圏向け製品は2006年5月末に全廃達成しました。 *2 安全規格上で使用するものや代替が困難なものは除きます。
*3 ここではPRTR法(特定の化学物質の取扱い、環境への排出量を把握・集計し公表する仕組み)対象物質、HFC類、PFC類、SF₆、VOCをさします。

*4 タイの拠点については洪水の影響で第1四半期のデータのみを集計しています。

価値の実現

品質に対する考え方

「お客様価値を創造するQ品質、Cコスト、D納期、S製品安全およびサービスを提供する」これはSIIグループの品質基本方針です。品質のみならずコストも納期も、そして製品の安全性も含めお客様にご満足いただきたいというSIIの強い意志が込められています。

品質マネジメントシステム規格 ISO 9001の統一認証化

SIIではISO 9001の認証を取得していますが、従来の各事業部門や関連会社単位での認証から、全社統一での認証に向けて取り組み始めました。2012年8月を目標とし、2011年度は第1期として9部門の統一化を実施しました。

統一認証を実現することによって、全社的な品質保証体制の強化を目指しています。

開発段階からの品質の作りこみ

品質問題やばらつきの原因は、多くの場合、開発・設計段階に原因があります。SIIが品質向上活動として特に力を入れて推進しているのが、この開発・設計段階で品質を作りこみ、技術完成度を徹底的に高めることです。

その施策として、品質工学や統計的手法、3次元CAD、CAE、機器分析を活用した技術者の思考力の向上や、設計条件や加工条件のパラメータの同時最適化による品質ばらつきの最小化などを、品質保証、研究開発、生産技術、分析評価他の関係部門が共同で取り組んでいます。

安全・安心を作りこむ品質保証

SIIの製品安全への基本的な考えは、「お客様へ安全な製品、サービスを確実に提供し、お客様の安心と信頼を高めること」です。継続的な製品安全教育を実施し、製品安全意識の向上と安全技術者を育成しています。

また、製品安全連絡会を設置し、全製品について定期的に製品安全・技術法規制点検を行い、製品の安全性と各国法規制への適合を検証しています。

SIIでは、万が一、SIIの製品による事故が発生した場合は、10分以内に経営トップへ報告し、同時に問題の早期解決と未然防止を図った上で、全社で情報の共有化と水平展開を進めています。



グローバルな業務プロセス点検

本社品質保証部門による「業務プロセス点検」を、海外を含めた全事業部門を対象に実施しています。これは品質を作りこむために、開発から製造にいたる業務の全プロセス実施の確実性、意識レベル、改善の進捗などを点検するものです。他部門の参考になる事例は、全社に水平展開しています。

品質情報の開示

消費生活用製品安全法の施行に合わせ、SIIホームページに「重要なお知らせ」アイコンを設置しています。SIIの製品の安全事故情報及び重要品質情報を、速やかに且つ的確にお客様にお伝えし、お客様の不利益を最小限に食い止めるよう努めています。

サプライヤーの皆様と共につくりあげる価値

購買活動の考え方

SIIが社会的責任を果たしていくためにはサプライヤーの皆様との協力が不可欠です。SIIは購買方針の中でも「サプライヤーパートナーシップの強化」を掲げ、公正で誠実な購買活動を進めています。

サプライヤー認定制度

2004年度に開始したサプライヤー認定制度に基づき2011年度末時点で国内では約1,500社のサプライヤーを認定しています。2011年度は認定基準および制度を一部

改訂しました。紛争鉱物の不使用に関する設問などを新たに設け、海外拠点が直接取引している直材サプライヤーについても半数以上の認定審査を完了しました。引き続き認定率100%を目指します。

下請代金支払遅延等防止法（下請法）の遵守

下請法は国内の購買活動において特に重要な法律です。SIIでは、本社に下請法事務局を置き、日常業務における適切な指導、下請法の教育等を通じてグループの購買関係者との連携のもと遵守に取り組んでいます。

購買リスク管理

製品を創出するメーカーとして、購入部品の供給停止のリスクを最小限に抑えることは重要です。購買部門では、地震などの災害発生時に迅速に対処できるよう、代替先や代替品の選定はもとより、製造拠点所在地も考慮しています。東日本大震災やタイの洪水に起因する調達難の際は、速やかに状況を確認し対応することができました。

新しい価値の創出

知的財産活動

SIIは、知的財産は事業活動上の重要資源と考え、開発などの成果の知的資産としての獲得とその活用に積極的に取り組んでいます。中・長期方針として「知的財産を尊重・重視する企業風土の醸成」を掲げ、知的財産部門、研究開発部門、事業部門が三位一体の活動を行っています。

2012年4月現在、SIIグループで保有している特許は、国内で約2,500件、海外では約3,400件です。

ユニバーサルデザイン(UD)への取り組み

SIIのUDの基本的な考えは「人に誠実であること」です。<気配り> <多様さ> <美しさ> の3つをキーワードに活動しています。

この基本的な考え方に加えて、ロングライフ、置き換え可能性など環境に配慮した「グリーンデザイン」にも取り組みました。キューブ型の小型POSプリンタRP-E10シリーズは、使用ニーズに配慮し、「同形状で上面排紙と前面排紙の二通りの仕様に対応できる兼用型」をコンセプトに開発しました。



キューブ型POSプリンタRP-E10シリーズ

お客様相談室

SIIお客様相談室では、お客様からのお問い合わせやご相談などに、迅速で正確、誠実な対応を心掛けています。寄せられたご意見、ご要望、お困りの声は、関係する事業部門と共有し、製品の品質改善など有効に活用させていただいています。また、製品の取扱相談窓口や修理サポート・サプライ窓口の対応改善などを提言し、お客様にご満足いただけるアフターサービスの品質向上にも力を注いでいます。

紛争鉱物への対応

紛争鉱物問題は国際的に大きな問題となっています。SIIではこの問題に対して適切な対応を図ることが重要と考え、2012年3月に「SIIグループ紛争鉱物対応方針」を制定しました。

SIIグループは、コンゴ民主共和国および周辺諸国における紛争や人権侵害などに関わる鉱物（紛争鉱物^{*1}）の使用禁止を推進していきます。

- SIIグループは、コンゴ民主共和国および周辺諸国における人権侵害、不正に関わる組織の資金源とされる紛争鉱物問題を国際的な重大問題と認識しています。
- SIIグループは「事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重する」ことをSII企業行動憲章において明確にしています。
- SIIグループは人権侵害行為に加担する意思はなく、本方針をグループ関係会社に周知徹底し、協力しながら推進していきます。
- SIIグループのサプライヤーの皆様にも、本方針にご協力いただくよう推進していきます。

*1：錫石（錫）、コルタン（タンタル）、鉄マンガン重石（タングステン）、金

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

SIIは、ステークホルダーの皆様の信頼に応えていくには、企業競争力を強化する効率的な仕組みと、合理的で透明性のある企業運営の仕組みにより、グローバルな環境変化に迅速に対応できる体制を構築し、確実に運用していくことが重要だと考えています。SIIでは企業価値の向上に向けて、経営の透明性・公正性の確保を重要な経営課題の一つと位置付け、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

【1】コーポレート・ガバナンスの体制

取締役会は、取締役11名で構成し、業務執行の監督及びSIIグループに関する重要事項の決定を行っています。取締役会は毎月開催（2011年度17回）し、特別な利害関係のない独立した社外監査役より妥当性・適正確保の観点から適宜質問・助言等がなされています。2011年度の社外監査役の取締役会平均出席率は93.5%でした。

監査役会は、監査役4名（うち社外監査役2名）で構成しています。監査役会で決定した監査方針・計画に従い、監査役が重要会議への出席や各部門との会合等を通じて情報を入手し、監査役会での意見交換により、取締役の職務執行を監査する体制になっています。監査役会は、ほぼ毎月開催（2011年度11回）し、社外監査役の監査役会平均出席率は94.5%でした。

会計監査人は、有限責任あずさ監査法人を選任し、監査役

と監査法人が監査計画を把握し、定例会合で情報を共有して監査を行っています。

業務執行体制は、業務執行と監督を分離する執行役員制度を導入しています。

【2】内部統制システムの整備

2006年に、取締役会において「内部統制システムの基本方針」を決議後、毎年、整備状況を取締役に報告し、方針の継続を決定しています。内部統制の全社推進組織として、経営監査室と内部統制推進室で構成するCIC本部を設置し、内部統制の強化に努めています。

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制としては、親会社であるセイコーホールディングス株式会社の財務報告に係る内部統制の評価及び報告のため、連結子会社としてSIIグループの内部統制の経営者評価を行い、親会社に報告を行っています。 [Web 内部統制システムの基本方針](#)

コンプライアンス

コンプライアンス体制

SIIではコンプライアンス体制の確立・維持のために委員会を設置し、コンプライアンス意識の普及啓発、問題事例発生時の対策検討などを行っています。

内部統制システムの基本方針に従い、国内外子会社におけるコンプライアンス体制の継続的な充実・向上を図っています。海外子会社での体制整備に向けては、各海外子会社で選任したコンプライアンス推進員によりコンプライアンス体制充実のための諸活動を推進しています。

SII行動規範・行動ガイドライン

SII企業行動憲章の内容を実践し、SIIグループの全ての役員・社員が遵守しなければならない基本的事項を定めた「SII行動規範」と、具体的かつ詳細な行動基準を明示した日本国内向け「行動ガイドライン」を制定しています。国内外問わず遵法と倫理的行動を果たすため、国内外の各拠点で継続的にSII行動規範の徹底を図っています。また、海外子会社向けの行動ガイドラインについて内容検討を行っています。 [Web SII行動規範](#)

内部通報制度

コンプライアンスに反する行為を通報できるよう、社外弁護士を窓口とするSIIヘルプラインを設置しています。SIIヘルプラインは、社内だけでなく取引先の皆様からも情報提供いただけるようになっています。また、社内に相談窓口も設置しています。なお、通報・相談の内容は定期的に経営トップおよび監査役に報告しています。

2011年度のSIIヘルプラインへの通報は5件、相談窓口への相談件数は19件でした。

コンプライアンス教育

経営トップから社員一人ひとりに至るまでコンプライアンスを徹底するために、2011年度も、国内のSIIグループの全ての役員・社員に回答必須のオンラインクイズを実施しました。また、経営幹部に対するコンプライアンス意識啓発教育も引き続き毎月実施しました。

リスクマネジメント

全社リスクマネジメントの取り組み

SIIでは全社的なリスクマネジメントを推進するために、本社部門の委員を中心に構成する委員会を設置しています。委員会では、本社部門及び事業部門のさまざまなリスクを識別・共有して活動を進めています。経営会議体での報告や、定期的な経営トップによるレビューを通じて、経営と一体となったリスクマネジメントのPDCAを確実に回しています。

リスクの一つである大規模災害発生時には、交通遮断などから、一時的に帰宅が困難になることが予測されます。SIIの国内拠点では、水・食料、防寒シート、その他の防災備蓄を計画的に準備しています。備蓄品はグループ内拠点間の支援にも有効に活用します。

事業継続上のリスクマネジメント

SIIの製造拠点では、リスク発生時においても継続的な製品の供給を目指し、生産を中断させないリスクマネジメントを実施しています。職場における作業改善から、設備投資を必要とする抜本的な改善、さらには新規工場建設での免震構造の採用にいたるまで計画的に取り組んでいます。

自然災害への対応について

- ・タイで発生した洪水においては、HDD部品の製造拠点であるSeiko Instruments (Thailand) Ltd. で被害を受けました。浸水前に本社対策本部を設置して被害を最小限にとどめる活動を展開しましたが、操業停止となり一部の製品供給に影響が出てしまいました。この教訓を活かし、さらに事業継続への対応力を強化していきます。
- ・東日本大震災後の電力規制については、グループで連携した共同スキームや節電対策により乗り切ることができました。

情報セキュリティ

情報セキュリティの考え方

企業の社会的責任として、お客様をはじめ、ステークホルダーの皆さまからお預かりする情報を保護し、漏洩を防ぐことは極めて重要です。また、内部統制上も情報セキュリティは重要な課題として取り組んでいます。SIIでは情報システム上で取り扱う全ての情報を、グループの重要な資産と位置づけ、情報セキュリティの強化を図っています。「情報システムセキュリティ方針」と「情報システムセキュリティ管理規程」を基本原則として、管理体制と各種ルールを定め、体系的かつ効率的な管理を進める一方、各種教育や事業部門及び関連子会社への監査を通じて、運用の徹底を図っています。

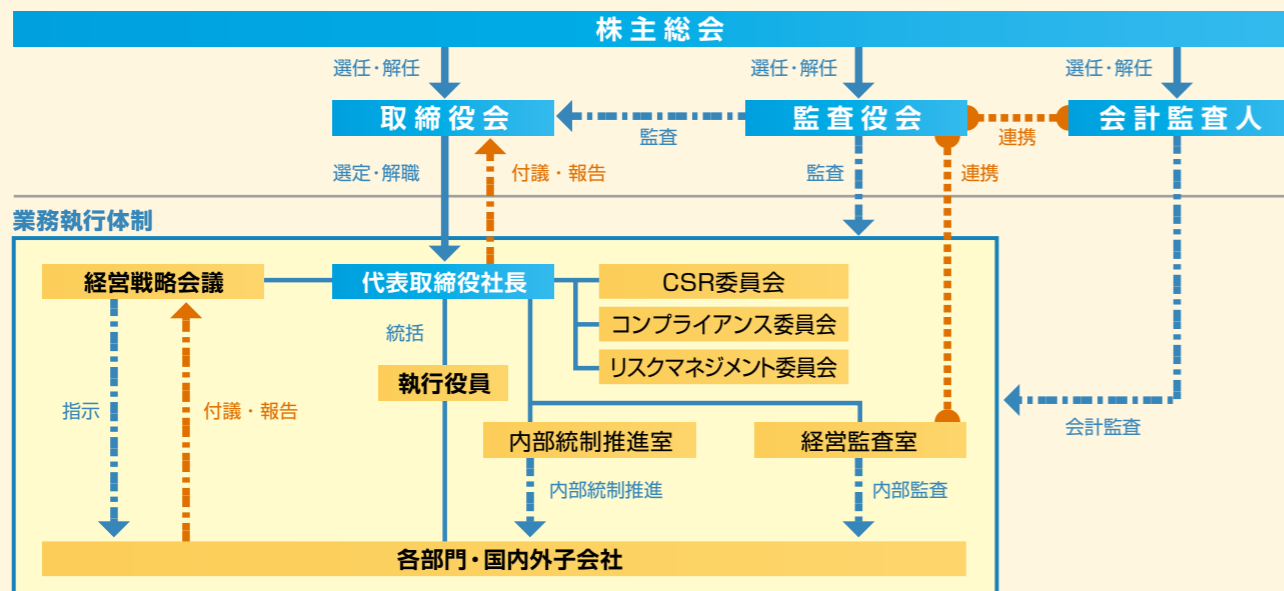
可用性の向上

システムの安定稼働とデータの保護を強化するため、仮想化技術を用いて、情報システムのサーバー・ストレージを集約・冗長化しました。あわせて、省電力化・省スペース化によるグリーンITにも取り組んでいます。

東日本大震災により課題として明らかになった通信障害の対策として、インターネット通信環境の抜本的な改善に取り組んでいます。また、メールシステムをはじめとするコミュニケーション基盤についても、クラウドサービスへ移行させることで、より可用性の高い環境を実現していきます。

[Web 個人情報保護ポリシー](#)

コーポレート・ガバナンス体制



社員に対する支援

人権の尊重

SIIではSII企業行動憲章で、事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重すること、社員の多様性を尊重することを明示し、グループ内での徹底を図っています。

SIIグループの人事制度の統一

SIIでは、社員は平等で公平に評価・処遇されるという考えのもと、国内・海外のどの拠点においてもSIIグループとして同じ価値観・評価基準に基づく人事制度の構築を進めています。この制度は、各国の法律遵守はもちろん、文化や慣習にも配慮しながら、国内・海外関係会社の人事部門と本社人事部門とがコミュニケーションをとりながら構築しています。

人材の育成

SIIの目指す社員像は高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材です。育成にあたっては人事部門による階層別教育、品質、環境、知的財産など職種別の専門教育や職場におけるOJTなどを通して実施しています。この他、新入社員については「メンター制度」を導入しています。この制度は新入社員一人に対して一人の先輩社員をメンター（良き相談相手）として任命し、指導や支援を継続的に行う制度です。



メンター制度（メンター・メンティペア研修）

また、SIIでは自分のキャリアや評価に対して自ら責任を持つ自立・自己責任型社員の育成に注力しています。「社内公募制度」、「フリーエージェント（FA）制度」、「公募留学制度」などの制度を設け、社員個人の意欲を尊重し、キャリア選択の幅を広げる支援をしています。

ワークライフバランスの実現

SIIでは社員の一人ひとりが能力を十分に発揮できるように、仕事と家庭生活との両立を支援する各種制度を定めています。制度は継続的に充実を図り、なかでも介護休職制度は対象家族のうち一人については3年間の休職を取得することができる制度にしています。2010年10月から時間単位休暇制度を導入し、より柔軟な働き方が可能になりました。今後も継続的に働きやすさを実現していきます。

【制度と利用実績】

制度	年度	2009年	2010年	2011年
育児休職		23名	20名	29名
育児短時間勤務		37名	36名	36名
介護休職制度		1名	2名	1名
介護短時間勤務		1名	1名	2名

技術・技能の伝承

SIIでは、技術・技能の伝承および後継者の育成を目的に、高度な専門性を保有している社員をプロフェッショナル人材として認定する「プロフェッショナル人材制度」を導入しています。この制度には、研究開発、設計、生産技術などを専門とするスペシャリストと、加工、組立など製造業務を専門とするマイスターのコースがあり、各々3段階のレベルが設定されています。2012年3月現在、45名のスペシャリストと16名のマイスターが認定され、それぞれの分野で活躍し、後継者を育成しています。今後は、海外拠点にもこの制度を導入していきます。

安心して働ける職場環境

安全衛生の考え方

すべての社員が「安全で、安心して働ける」、すべての社員が「心身ともに健康である」ことが企業を支える根幹をなすものと考えています。2008年に定めた「SIIグループ労働安全衛生方針」のもと、SIIグループすべての拠点において、高い安全意識を持って事業活動を行っています。

[Web](#) SIIグループ労働安全衛生方針

SIIグループ安全衛生管理体制と情報の共有化

SIIでは事業所単位の安全管理体制に加え、グループ横断で安全管理を統括するSIIグループ安全管理運営機構を構築

しています。拠点の担当者で構成する「SIIグループ安全管理担当者会議」では、各拠点の活動報告のほか、法令改正や社内ルールの確認など、安全に関する情報の共有化を図りました。

今後は海外拠点との情報の共有化も視野に入れながら、グループ内の安全管理レベルのさらなる向上に取り組んでいきます。

安全に関する点検と調査

SIIでは安心して働ける労働安全衛生環境の維持向上のため、毎年、事業所毎に行なう職場安全巡回等に加えて、海外の製造拠点を含めたSIIグループ全拠点を対象に、「総合安全点検」を実施しています。

これまで、総合安全点検では、工場火災予防点検、作業環境リスク点検および建物設備安全点検の3つの点検を行っていましたが、2011年度からは事業所セキュリティ点検を追加しました。点検結果は安全管理担当者会議にて報告、水平展開し、職場の安全性の向上を図っています。

普通救命講習会の実施

AED（自動体外式除細動器）の導入に伴い、各拠点では普通救命講習会を定期的に行っています。これまで国内拠点で延べ1,009名（2011年度は160名）の社員が受講し、救命技能を身につけました。SIIの社員が1人でも多く救命技能を身につけられるように、今後も継続的に救命講習を実施していきます。

防災訓練の実施

- 幕張事業所では、東日本大震災の経験を踏まえ、実際の被害を想定した総合防災訓練を行いました。東日本大震災の際に、交通網が完全に機能停止し多くの社員が帰宅出来なかったことや、長い道のりを歩いて帰る社員が多かったことを受け、会社に残る社員と帰宅する社員とを速やかに把握し、帰宅者にはエマージェンシーキットを、会社に残る社員には、非常食などを手渡す訓練を行いました。
- 栃木事業所では、全社員を対象とした総合防災訓練に加え、夜間の避難訓練などさまざまな角度から訓練を実施しました。夜間の訓練では夜間だからこそ発見できた気付きがあり、万全の備えにつながりました。



夜間の避難訓練

社員の心身の健康を支援

健康は個人の財産といえます。SIIでは社員が心身ともに健康であることを目指し、健康保険組合・労働組合・会社とが一体となり健康づくり活動を推進しています。

2008年4月から特定健康診査と特定保健指導の実施が始まりました。2011年度も、メタボリックシンドロームに着目し、40歳以上の個人を対象とした特定保健指導を実施しました。定期健康診断結果に基づいて、産業医や看護師による保健指導を実施し、生活習慣の身近な改善を指導し、その成果も徐々に現れてきました。

また、早期発見・早期治療につながるよう、男性には前立腺がん、女性には子宮頸がんの検診を実施しています。この検診は40歳以上の扶養家族も受診が可能です。

家族と一緒に健康づくり

SIIの各拠点では肩こり・腰痛予防などに対して実践を交えた健康セミナーや、家族も一緒に参加できるウォーキングを継続的に開催しています。

2011年度のウォーキングは、グループ内で15回開催し、延べ394名が参加しました。毎回楽しみに参加する社員や家族が増えています。

健康相談窓口の設置

SIIでは外部専門機関と提携し、24時間体制でいつでも健康相談が可能な窓口を設置しています。

全国THP推進協議会より進歩賞を受賞

- 栃木事業所は、全国THP（Total Health promotion Plan）推進協議会より、「進歩賞」を受賞しました。これは、心とからだの健康づくりの推進に功績のあった事業所に授与されるもので、栃木事業所の継続的な健康づくりの取り組みが評価されました。



取り組みの一環として2011年度は、栃木市の協力を得て「健康あつぱ講座」を開催しました。参加者19名は健康運動指導士によるストレッチ方法、管理栄養士によるカロリー計算など、すぐに実践できる講義を受けました。

地域・社会とともに

学術振興による社会貢献



公益財団法人 新世代研究所（略称：ATI）はSIIの全面出資により設立されました。ナノサイエンスにおける新しい研究概念の創出と、異分野の研究領域間の融合をめざした総合的調査研究などを通じて、人類社会の発展とその基盤である学術の振興に寄与することを目的としています。ナノ計測技術からバイオロジーに至る研究会活動の推進、若手研究者への研究助成、また、市民講座ATI公開フォーラムなどの事業を行っています。

ATIは任意団体としての発足から2010年で設立25周年を迎えました。2012年度からは公益財団法人として新制度のもと、よりユニークな学術活動推進事業へ取り組んでいきます。

Web ATI <http://www.ati.or.jp/>

第6回合同研究会・ATI 25周年記念会

2011年11月、異分野の研究領域間の融合を図る合同研究会「ソフトマター・バイオとナノ科学」を開催しました。また、ATI 25周年記念会としてナノ科学をめぐる学術講演会を開催し、これまでのナノ科学における進展と今後を展望しました。



ATI 25周年記念 学術講演会

シンガポールにおける技術振興

シンガポール駐在員事務所は、海外研究開発の拠点としてシンガポール科学技術研究庁傘下の国家研究機関や、シンガポールの大学と共同開発を推進しています。

国立マイクロエレクトロニクス研究所（IME）との共同開発では、MEMSデバイスを真空封止する新しいパッケージの技術開発を推進しています。この技術により、小型化・低消

費電力化が実現でき、環境にも貢献できます。

また、国立製造技術研究所（SIMTech）とは、高精度かつ無駄となる材料をできる限り少なくする精密部品加工技術の開発を推進しています。これは、低コストで、資源効率性を高めた環境にやさしい加工技術を目指しています。

「機械式腕時計」を通じた社会貢献 —メカ時計セミナー—

盛岡セイコー工業（株）では、一般の方々を対象に機械式腕時計の組立が体験できる「メカ時計セミナー」を開催しています。このセミナーは「機械式腕時計のファンを増やしたい」という思いを込めて、2007年より継続的に開催しているもので、これまで126名の方に参加いただいています。

セミナーは初めての方を対象とした体験コースと少しレベルの高い初級コースからなり、SII製機械式ムーブメントを搭載した腕時計を教材として使用します。

第5回目となった2011年度は東日本大震災の影響で開催も危ぶまれましたが、無事に開催に至り、参加者23名の方に時計の分解から組立までを楽しんでいただきました。



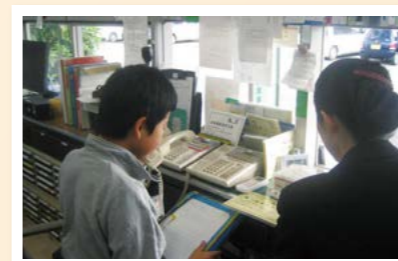
技能の伝承 —いわて機械時計士技能評価制度—

盛岡セイコー工業（株）では、「いわて機械時計士技能評価」を実施しています。2006年に創設したこの制度は、機械式腕時計の技能評価を通じて、技能の普及と向上や後進への継承を行い、日本の機械式腕時計の復興を目指すもので、岩手県の「技能評価制度」に認定されています。

試験は実技試験と学科試験、面接からなり、2011年度は総勢32名の方が挑戦され12名が合格しました。合格者には岩手県知事認定の合格証書が授与されます。

就業体験への協力

- SIIの各拠点では、工場見学の受け入れや地元の児童・生徒の就業体験に継続的に協力しています。高塚事業所では、2日間にわたり工場見学と職場体験実習に協力しました。職場体験実習では各職場に分かれて組立・加工業務、警備業務、設備管理業務など実際の業務を体験してもらいました。



警備業務の実習

地域とのコミュニケーション

- 盛岡セイコー工業（株）は2008年より「地域とはじめる環境報告会」を開催しています。2011年度は地元の栗石町の住民の方々をはじめ総勢20名の方にご参加いただきました。会社概要と環境活動の説明・報告の後は、製造現場と廃液処理施設をご見学いただき、意見交換会では貴重なご意見とお褒めの言葉をいただきました。



廃液処理施設見学

海外拠点の取り組み

地域清掃活動

- SIIの各拠点では地域に根ざした清掃活動を行っています。Seiko Instruments (H.K.) Ltd.(略称:SIH)は香港政府によって運営されている「パタフライ・ビーチ」でクリーンアップ活動を行いました。事前に香港政府から許可を取得し、社員とその家族14名が参加し、海辺の環境改善に貢献しました。



- 大連精工電子有限公司（略称：DSI）では大連市星海広場および周辺地区のクリーンアップ活動を実施しました。これはDSIの環境事務局が主催したもので、各部門の環境担当者18名が参加し、地域の環境美化に努めました。



植樹活動

- 広州精工技術有限公司(略称:GSW)は広州の白雲山にて植樹イベントを開催しました。これは社会貢献と社員の環境意識と団結力を高めることを目的にGSWが主催したもので、当日は社員の家族を含めて38人が参加し50本の木を植えました。



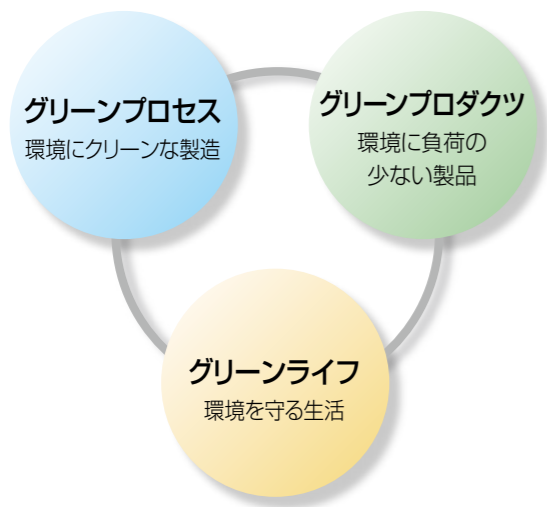
- Seiko Instruments (H.K.) Ltd. (略称:SIH)は環境NGO「フレンズ・オブ・ジ・アース」が主催する「植樹チャレンジ」に2007年より継続的に参加し、これまで660本以上の苗木を植樹してきました。2011年度は20名が参加し5チームに分かれ約250本の苗木を植えることができました。



SIIグループの環境経営

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。

グリーンプラン概念図



SIIグループ環境方針

環境理念

SIIグループは良き企業市民として、企業活動と地球環境との調和をめざし、環境の保全と継続的向上に努め、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献する。

環境活動指針

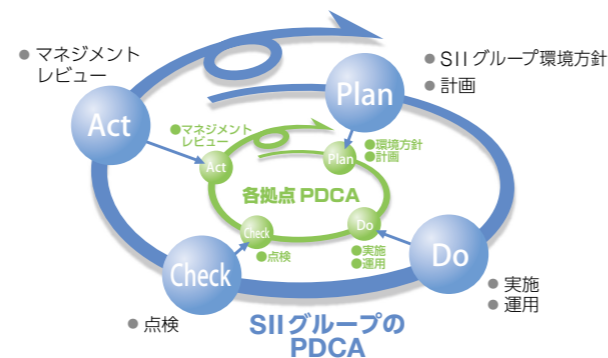
- 環境マネジメントシステムを維持し、かつ継続的な改善を図る。
- 環境関連の法規制、協定等を遵守し、環境汚染の未然防止を図る。
- 製品・サービスを通じて環境保全に貢献する。
- 環境負荷を継続的に低減するために次の項目に取り組む。
 - ライフサイクルにわたって環境負荷を低減した製品・サービスを提供する。
 - 省エネルギーを徹底し、地球温暖化防止に努める。
 - リデュースを始めとする3Rに努め、地球資源の有効利用を図る。
 - 化学物質による環境リスクを低減させるとともに、有害物質の排除を推進する。
- あらゆる製品・部品・サービスの調達に際し『グリーン購入』を推進する。
- 内部環境監査を実施し、自主管理の向上を図る。
- 環境に関する社会活動により、社会に貢献する。
- 全社員に環境教育を徹底し、意識の向上を図ると共に、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努める。
- 環境マネジメントシステムの運用状況について、社会各層に積極的な情報開示を図る。

環境マネジメントシステム

SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。

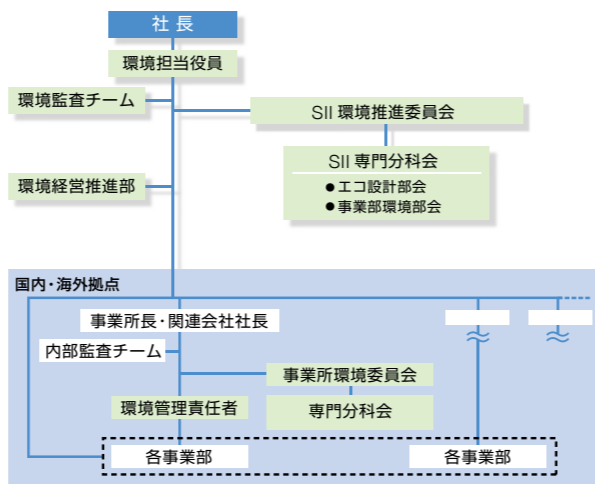
「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。その活動実績は定期的に本社の環境経営推進部へ報告され、環境経営推進部では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。SIIでは国内、海外の主要拠点でISO14001認証取得をしています。

[Web](#) ISO14001認証取得拠点



環境マネジメント体制

セイコーインスツル（株）の社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。環境経営推進部が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。SII環境推進委員会では、SIIグループの目的・目標の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。



全社環境教育

SII本社が主催する環境教育は、一般教育、専門教育、社内資格者養成教育の3つに大別されます。その教育カリキュラムは毎年見直しを行い、年度の環境教育計画を策定し、各拠点に受講を要請します。2011年度の本社主催の教育には165名（累計2,874名）が参加しました。教育後はアンケートを実施し、次回の教育に反映させています。本社主催の教育の他、各拠点でも独自の環境教育や啓発活動を実施しています。

グリーン購入

SIIでは、品質や価格だけの判断だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを選ぶグリーン購入に取り組んでいます。

生産材については「SIIグループグリーン購入基準書」を用いてサプライヤーの環境管理体制やSIIが定めた特定化学物質の含有/使用の有無を調査し、所定の基準を満たした物品をグリーン物品として認定しています。

また、生産材の他、事務用品類については電子購買システムを利用し、環境負荷の少ない商品を優先的に登録し、購入者が容易にグリーン購入できる仕組みを確立しています。

[Web](#) グリーン購入

環境リスクマネジメント

SIIでは、各国の環境法規制からの逸脱や廃棄物・化学物質の不適切な管理による環境汚染、設備の老朽化や災害に伴う有害物質の流出など環境に関するリスクに対し、未然防止や継続的な低減に努めています。

水域や大気などへの排出については、各拠点ごとに法規制値よりも厳しい自主基準を設定し、管理しています。

廃棄物については、敷地内における適正な管理の他、廃棄物処理委託先の現地確認を定期的実施しています。

また、各拠点では緊急事態を想定し、その対応策やコミュニケーションに関する手順書を整備しています。定期的な手順書に基づいた緊急事態対応訓練を実施し、手順書の有効性を確認すると同時に、汚染の拡大防止の方法を実践で習得しています。



化学物質漏洩対応訓練

内部環境監査

内部監査は、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスの継続的な向上を主眼に、客観性・独立性を保ちながら実施しています。監査員は、他の拠点や本社からも参加することにより、高い有効性と拠点間の情報交換による相乗的な効果を狙っています。

2011年度の内部監査の結果は、国内拠点、海外拠点ともに、環境側面、力量・教育訓練及び自覚、運用管理に関する指摘が多い結果となりました。

内部監査の信頼性を上げていくためには、内部監査員の育成が必須です。SIIでは内部監査員教育の他、内部監査員のリフレッシュ講座も設け、監査員のスキルアップを図っています。

また、監査経験など一定の要件を満たした監査員を会社として認定する「SII環境監査員認定制度」を設け、2012年3月現在、22名が認定されています。この他、CEAR（環境マネジメントシステム審査員評価登録センター）登録の審査員を8名擁しています。

廃棄物焼却施設の見学

- Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd. (略称：SIS) はTuas廃棄物焼却施設を訪問しました。これはSISが、シンガポールの環境月間にあわせて、シンガポールにおける膨大な量のゴミ焼却の現状を学ぶために企画したものです。当日は20名の社員が参加し、改めて廃棄物の排出量そのものを減らすことをはじめとする3R (Reduce, Reuse, Recycle) の重要性を学びました。



施設の概略説明



焼却システムの説明

グリーンプロダクツ ～環境に配慮した製品・貢献する製品～

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し、環境経営を実践しています。
SIIの技術理念「匠・小・省」をベースに環境に配慮した製品・貢献する製品の提供を通じて持続可能な社会に貢献していきます。

SIIグリーン商品・SIIハイグレードグリーン商品

SIIでは、2001年12月より環境ラベルタイプII (ISO 14021)に相当する「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入しています。SIIグリーン商品は、SIIが独自に定めた5段階評価方式の環境配慮基準(グリーン商品基準)に基づく評価の結果、平均点が3.5点以上の商品に対して認定するものです。そして、2006年10月にはSIIグリーン商品の中でも極めて環境性能の高い商品を認定する「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入しました。SIIグリーン商品基準は、常に業界のトップレベルを見守りながら、2年に1度、基準の見直し・改訂を行い、先進性を維持しています。また、環境部門だけではなく、全事業部門の開発・設計者がお互いに評価をして認定を行い、公平、客観的で広い見地からの審査に加え、事業部間の情報交換も行うことで、全社的なグリーン商品の底上げも進めています。



の高い商品を認定する「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入しました。SIIグリーン商品基準は、常に業界のトップレベルを見守りながら、2年に1度、基準の見直し・改訂を行い、先進性を維持

[Web](#) 環境配慮型製品

SII グリーン商品

SIIグリーン商品基準評価項目による評価の平均点が3.5点以上

No	環境配慮項目
1	使用時消費電力
2	待機時消費電力
3	製品の重量
4	再使用部品・リサイクル材料使用部品使用
5	使用済製品のリサイクル可能性
6	製品の長寿命化
7	物品への含有回避物質 [*] の含有抑制
8	物品への条件付含有禁止物質 [*] の含有禁止
9	物品への含有禁止物質 [*] の含有禁止
10	梱包の小型化・軽量化
11	梱包での発泡材使用抑制
12	梱包での塩ビ、重金属使用回避
13	製造工程での省エネ
14	製造工程での省資源
15	製造工程での使用回避物質 [*] の使用抑制
16	製造工程での使用禁止物質 [*] の使用禁止
17	グリーン購入の実施
18	解体作業容易性
19	分別作業容易性
20	取説等への情報開示
21	お客様の製品の環境性能向上や人々が生活する環境の保全に貢献

* 当社基準

SII ハイグレードグリーン商品

必須	LCA 評価を実施している
	1. SIIグリーン商品基準評価項目のうち何らかの項目の環境配慮がトップレベル <ul style="list-style-type: none"> 「世界最小」「国内最小」「業界最小」など、トップレベルである 環境効率(=機能/環境負荷)が従来製品比の2倍以上 など
選択	2. 特徴的な環境配慮項目がある <ul style="list-style-type: none"> 原材料、加工方法などの環境負荷低減をトップランナーで実現 他社にない斬新な技術で環境負荷低減に貢献 組み込まれることでお客様の製品の環境性能向上に"大きく"貢献する、又は人々が生活する環境の保全に"大きく"貢献する など



SIIの技術理念
「匠」:一歩進んだものを、
「小」:ミニマムサイズで、
「省」:環境にやさしく創ること。
これを"SYO"ismとして表しています。

グリーンプロダクツ

製品自らの環境性能を向上

グリーンプロダクツplus

SIIの製品そのものの環境性能を向上する取り組みに加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を『グリーンプロダクツplus』と名付け、製品やサービスの創出に注力しています。2011年度はこのグリーンプロダクツplusとしての貢献度をSIIグリーン商品基準の評価項目に取り入れて運用を開始しました。

グリーンプロダクツ plus

お客様の製品の環境性能を向上
人々が生活する環境の保全に貢献

ボルテージレギュレータ
S-1333
出力電流300mA・低消費電流25μA typを実現し、搭載機器の消費電力削減と基板の実装面積の縮小化に貢献します。

水晶振動子
SSP-T7-FL
スタンバイ動作時の待機電力を低減。電池駆動製品の長寿命化に寄与します。



身近なところに

電子辞書
—すべてがSIIグリーン商品—
液晶の保護にSII独自のダンパーシエル構造を採用し、堅牢性に優れています。

SR-G9003NH3



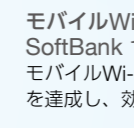
エネルギーソリューション



低ESR チップ形 電気二重層キャパシタ
「CPXシリーズ」
業界最小の内部抵抗・リーク電流で、エネルギーハーベスティングや無線デバイス電源に最適です。



通信アダプタ
MB-B100-00
1台でさまざまな管理・監視を実現。名片サイズの小ささで、搭載機器の小型化にも貢献します。



モバイルWi-Fiルーター
SoftBank 101SI
モバイルWi-Fiルーター最大の通信速度76Mbpsを達成し、効率アップ・省エネに貢献します。



次世代通信

センサーネットワーク



無線センサーネットワーク
「ミスター省エネ」
温湿度、照度、CO₂、電力、パルスカウント等のデータの見える化だけでなく、空調、照明機器の制御も可能。地球温暖化防止に貢献します。



PHS電話機
PORTUS (WX02S)
1台にPHS電話機とWi-Fiルーターの機能を持たせることで、省資源とユーザーの携帯性向上に貢献します。

地球温暖化防止

地球温暖化対策の考え方

気候変動枠組条約が採択されてから20年が経った現在も、地球温暖化は重大な地球環境問題であり、今後も企業の果たすべき役割は大きいと考えています。

SIIは工場やオフィスでの省エネ活動はもとより、SIIが提供する製品・サービスなどを含め、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。

2011年度の総括

2011年度は夏季の徹底した節電対策や生産減により、国内拠点におけるCO₂排出量は前年度から2,535トン減少し、64,729トン-CO₂となり目標を達成することができました。(前年度比3.8%減少)

海外拠点については、30,674トン-CO₂(参考値)と前年度比35.8%の減少となりましたが、これはタイの生産拠点が洪水の影響を受け操業停止となったためです。

国内拠点における夏のピーク電力対策

東日本大震災の影響を受けた2011年の夏は、電力使用制限令が発動し待ったなしの対応を迫られました。自家発電機の導入などのインフラ整備に加え、工場では、一定期間停止が可能な設備の停止、工程のエア圧を可能な限り抑制、昼間稼働の工程を夜間稼働にシフトするなど地道な活動に取り組みました。日常生活では超クールビズの実施や照明の間引きなど、徹底した省エネ活動を展開して乗り切ることができました。

電力の見える化

- 盛岡セイコー工業(株)では電力の見える化に取り組みました。制限電力量、現在の電力使用量や当日の最大電力使用量などを、全社員が見て実感できるように、電力モニターをエントランス、食堂、工場に設置しました。電力の計測にはSIIの製品である無線センサーネットワーク『ミスター省エネ』を利用しています。



製造工程の改善 - 洗浄時間の短縮 -

- 大連精工電子有限公司(略称:DSI)では部品の洗浄時間の短縮に取り組みました。品質が変わらないことを絶対条件にテストを繰り返した結果、部品の種類により従来の1/2~3/4に洗浄時間を短縮しました。これにより洗浄機の稼働時間の短縮も可能になり、洗浄機の熱源となるガスの使用量は年間で23,000m³削減することができました。

資源循環

資源有効活用の考え方

資源の枯渇は企業経営に重大な影響を及ぼします。SIIは循環型社会の形成に向けて地球資源の有効活用を図ることは極めて重要な責務と考えています。

2011年度の総括

2011年度の国内拠点における廃棄物総発生量は2,834トンで前年度から104トン減少しました。主な要因は生産減によるものです。また、2011年度からは目標を再資源率の向上として取り組み、目標88%に対して実績は94%となり目標を達成できました。

海外拠点については、タイの拠点の操業停止の影響で廃棄物総発生量としては大幅に減りましたが、再資源率は悪化する結果となりました。

製品の回収と再資源化

限りある資源を有効に活用するために、使用済みの製品や消耗品の回収と再資源化に取り組んでいます。

- 大判プリンターの使用済みトナーカートリッジ、廃トナーボトル等は回収を行っています。適正な処理により、回収したトナーカートリッジ等の約90%がリサイクル可能となっています。

業界団体などを通じた回収・適正処理・再資源化

製品など	参加団体
データ通信カード PHS電話機	モバイル・リサイクル・ネットワークに参加
ボタン電池	ボタン電池回収推進センターに参加 (一般社団法人電池工業会)
小形二次電池	一般社団法人JBRCに参加
容器包装	公益財団法人日本容器包装リサイクル協会に委託

レアアースのリサイクル

- 栃木事業所では研磨剤に含まれるレアアースの一つであるセリウムのリサイクルに取り組みました。レアアースの供給不足が各分野で混乱を招き、代替材料の開発や回収によるリサイクルが望まれています。栃木事業所では技術、製造、品質部門が共同でリサイクル条件を確立し、研磨剤からの回収・リサイクルを実現しました。



リサイクル装置

化学物質管理

化学物質管理の考え方

化学物質を正しく安全に管理していくことは、企業の責任であり、リスクマネジメントの上でも重要だと考えます。SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質(22物質)とVOC(揮発性有機化合物:100物質)を排出量削減の管理対象としています。

製品含有化学物質の管理

SIIでは各国の法律で含有が禁止されている物質はもちろんですが、有害性が懸念されている物質についても管理対象として製品への含有禁止や削減に取り組んでいます。管理対象物質のうち、RoHS指令*1対象物質である鉛、カドミウム、水銀、六価クロムにポリ塩化ビニル(PVC)を加えた5物質を非含有管理物質として定めて、製品に携わる事業部門にて管理体制を構築して削減活動を推進しています。

時計や電子辞書から大型プリンタ製品に至るまで、各国の含有規制を遵守することはもとより、最終製品に組み込まれる電子部品などの製品については、規制より厳しい含有閾値への対応やハロゲンフリーなどお客様からの要請にも対応しています。

2011年度は、2013年1月に発効する改正EU RoHS指令の要求事項の周知を図るとともに、近々に適用除外から外れる部品の把握とその代替を進めました。

また、REACH規則*2での要求である、製品に含まれるSVHC(高懸念物質)*3の状況を継続的に把握し、その結果を踏まえて削減と代替活動を推進しています。

*1 RoHS指令:電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令。
*2 REACH規則:EUにおける化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規則。
*3 SVHC:REACH規則の付属書XIV「認可対象物質のリスト」への収載候補とすることを決定した高懸念物質(SVHC:Substances of Very High Concern)。

2011年度の総括

2011年度の製造工程における管理対象物質の排出量は、目標29トンに対して29.6トンでわずかに目標を達成できませんでした。また、製品含有化学物質については非含有管理物質5物質の非含有を95%以上に維持でき、目標を達成しました。

生物多様性保全

生物多様性保全の考え方

SIIグループの事業活動は生態系サービスに依存しています。生物多様性の保全は、社会貢献活動という面だけではなく、本業で対応を検討すべき環境経営の重要課題だと考えます。SIIでは生物多様性の保全に具体的に取り組むにあたり2011年4月に生物多様性行動指針を策定しました。

SIIグループ生物多様性行動指針(2011年4月制定)

<基本的な考え方>

SIIグループは事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、また、同時に影響を与えていることを認識し、生物多様性の保全に努めます。

<重点施策>

- 事業活動を通じた生物多様性への影響について理解を深めます。
- 製品・サービスのライフサイクルにおける生物多様性への影響を分析・評価し、その低減に努めます。
- 地域の生物多様性保全に資する社会貢献活動を推進します。

2011年度の総括

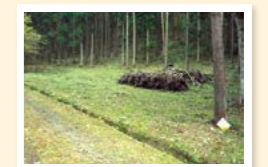
2011年度は行動指針の周知および生物多様性とその重要性の理解の普及活動に努めました。また、指針の重点施策である製品のライフサイクルにおける生物多様性への影響の評価について着手すると同時に、拠点における土地利用の状況と生物多様性との関連について評価の準備を進めてきました。2012年度は実際に土地利用状況について評価を行っていきます。

森林整備活動

- 盛岡セイコー工業(株)は、岩手県および栗石町(岩手県岩手郡)と「企業の森づくり」活動の協定を締結し、栗石町にある「七ツ森森林公園」の森林整備活動を行っています。2011年度は、整備活動の一環として草刈りに協力しました。



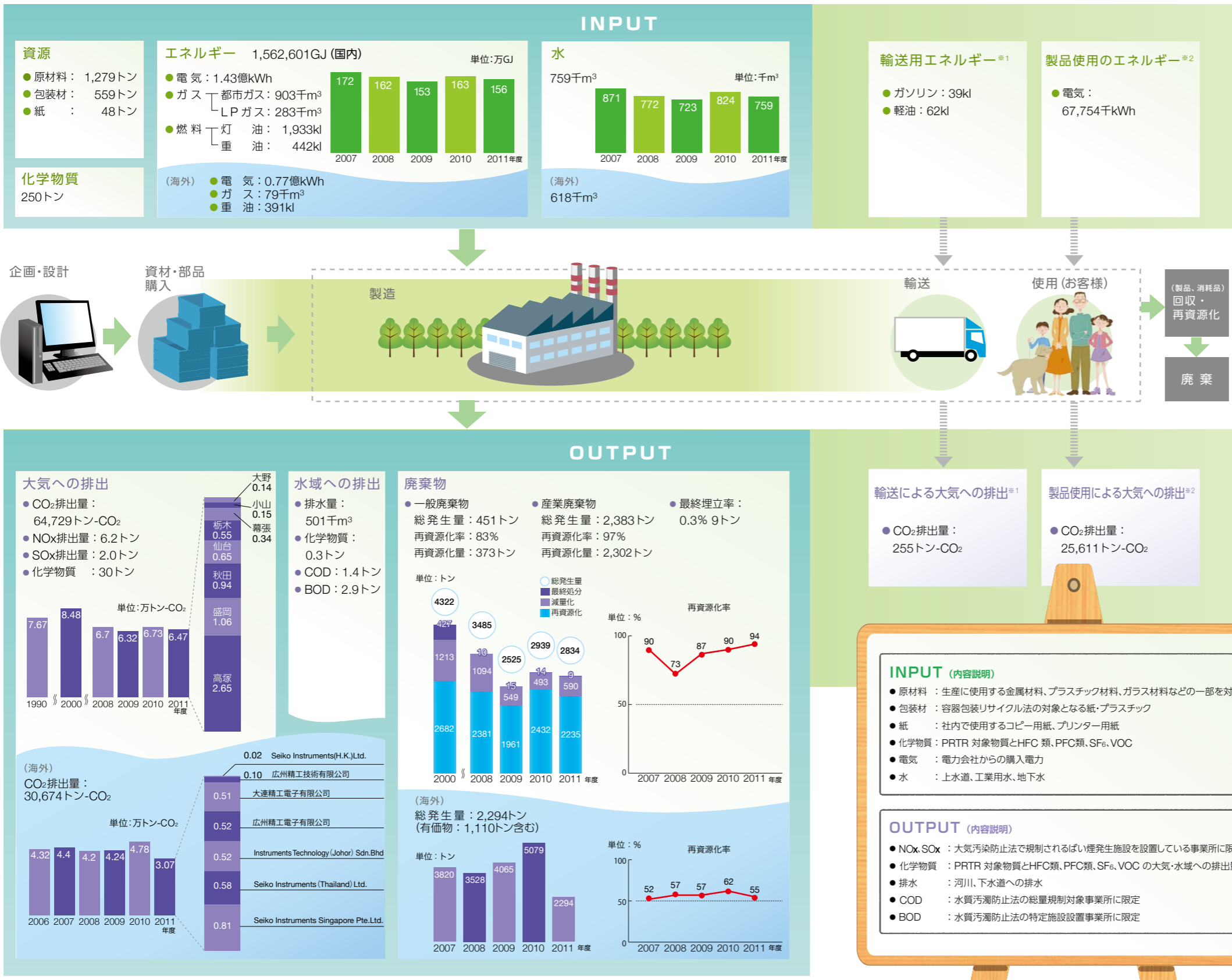
草刈り前



草刈り後

事業活動と環境負荷

SIIは、製品のライフサイクルを通して環境負荷を的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。
2011年度の環境負荷の概要は次の通りです。



*1：国内のSIIグループ間の輸送のみを対象 *2：2011年度までのSIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計

拠点概要と環境負荷

国内拠点	海外拠点
本社・幕張事業所 ISO14001認証取得:2001年10月 IN ● 電力:7,845千kWh ● 都市ガス:27千m ³ ● 地域冷暖房:11,486GJ OUT ● CO ₂ 排出量:3,412トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:178トン (再資源量:152トン)	大連精工電子有限公司 ISO14001認証取得:2001年6月 IN ● 電力:12,953千kWh ● ガス:79千m ³ ● 蒸気:2千t OUT ● CO ₂ 排出量:5,124トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:427トン (有価物量:258トン)
高塚事業所 ISO14001認証取得:1996年11月 IN ● 電力:64,611千kWh ● 重油:6kl ● 都市ガス:805千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:26,507トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:1,014トン (再資源量:952トン)	広州精工電子有限公司 ISO14001認証取得:2003年7月 IN ● 電力:10,748千kWh ● 重油:391kl OUT ● CO ₂ 排出量:5,154トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:484トン
大野事業所 ISO14001認証取得:1999年3月 IN ● 電力:3,284千kWh ● 都市ガス:72千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:1,417トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:71トン (再資源量:56トン)	広州精工技術有限公司 ISO14001認証取得:2005年3月 IN ● 電力:2,641千kWh OUT ● CO ₂ 排出量:1,007トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:54トン
栃木事業所 ISO14001認証取得:1998年2月 IN ● 電力:11,253千kWh ● 重油:436kl OUT ● CO ₂ 排出量:5,468トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:312トン (再資源量:312トン)	Seiko Instruments(H.K.)Ltd. ISO14001認証取得:2005年3月 IN ● 電力:590千kWh OUT ● CO ₂ 排出量:225トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:4トン
仙台事業所 ISO14001認証取得:1999年2月 IN ● 電力:12,915千kWh ● LPガス:260千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:6,461トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:105トン (再資源量:102トン)	Seiko Instruments Singapore Pte.Ltd. ISO14001認証取得:1997年5月 IN ● 電力:21,251千kWh OUT ● CO ₂ 排出量:8,104トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:285トン (有価物量:109トン)
秋田事業所 ISO14001認証取得:1997年4月 IN ● 電力:20,178千kWh ● 灯油:684kl ● LPガス:1千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:9,431トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:399トン (再資源量:379トン)	Instruments Technology (Johor) Sdn.Bhd ISO14001認証取得:2002年10月 IN ● 電力:13,760千kWh OUT ● CO ₂ 排出量:5,247トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:130トン (有価物量:98トン)
エスアイイー/ナテクノロジー株式会社 小山事業所 ISO14001認証取得:1998年8月 IN ● 電力:2,709千kWh ● 灯油:169kl ● LPガス:3千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:1,481トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:112トン (再資源量:106トン)	Seiko Instruments (Thailand) Ltd. ISO14001認証取得:2002年3月 IN ● 電力:15,241千kWh OUT ● CO ₂ 排出量:5,812トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:910トン (有価物量:646トン)
盛岡セイコー工業株式会社 ISO14001認証取得:1997年4月 IN ● 電力:20,224千kWh ● 灯油:1,080kl ● LPガス:19千m ³ OUT ● CO ₂ 排出量:10,552トン-CO ₂ ● 廃棄物総発生量:642トン (再資源量:616トン)	● 国内拠点の再資源量には有価物を含んでいます。 Web サイトレポート



セイコーインスツル株式会社
環境経営推進部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507
電話番号：043-211-1111（代表）
043-211-1149（直通）
ファクシミリ：043-211-8019
<http://www.sii.co.jp/eco/>



この印刷物に使用している用紙は、
森を元気にするための間伐と
間伐材の有効活用に役立ちます。



植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

発行日2012年7月 次回発行2013年7月
1-1207/6000/CO/KP